

『あれ？なんだこれは？？』 1歳児 4月



エピソード

色水の入ったペットボトルを持っていた A 児の手から、ペットボトルが落ち、コロコロと床に転がっていきました。見るとペットボトルの中の色水（青色の水）が、白く泡立っており、A児の視線はその泡に釘付けになっていました。いつもと何か違う様子に気付いた A 児は、ペットボトルを拾い、側にいた保育者に笑いかけました。

「あれ？なんだろうね」と保育者が声をかけると「なんだろうね」と同じ言葉を繰り返し、保育者とペットボトルの泡をしばらく見ていました。

その後、A 児はペットボトルを反対に向けたり縦や横に向けたりしながら泡の様子を見続けていました。最後は泡がなくなり「なくなっちゃったね」と保育者が言うと、何も言わずに笑顔だけを向けて、ペットボトルを保育者に渡し、別の遊び場へと行きました。

保育者の思い

普段の遊びの中で偶然起こった事から、いつもと違うことを感じて視線を向けた A 児が何に思いを向けているのかを知ろうと、A 児と同じ視線の先を見たり声掛けをしたりしました。泡の面白さだけではなく、保育者へ自分の気付きが伝わった喜びを A 児の笑顔や声の表出からも見ることができました。

保育者が子どもの思いをくみ取り、思いが伝わる嬉しさや安心感、コミュニケーションの楽しさも、A 児とのやりとりの中で感じました。



子どもの育ちや学び

あれ？と思った事に対して、「見る」という行動をしたことで、「なんだろう」「なんか違うな」など感じたことが、今後「考える力」に繋がり、いろいろな事を試してみようとする意欲や好奇心にも繋がり、子ども達の中での経験が増えてくることが学びになっていきます。

また、A児の気付きを保育者が感じ取り、言葉をかけたことで、伝わる嬉しさを感じ、人と関わることの喜びや言語の獲得に繋がっていきます。

家庭だったら・・・

子ども達が、ふと立ち止まって何かをじっと見ている姿があった時には、何を見ているのか同じ視線の先を一緒に見てみてください。その行動だけでも、子ども達は嬉しいと感じ、自分の思い（何かを感じた思い）が伝わった嬉しさや自分と関わろうとしてくれている嬉しさを感じ、笑顔を向けたり声を出して喜びを表したりしていると思います。

